

# 自分自身のことばを見つめ直す

## —— コース紹介



### ～はじめに～

人生100年時代の学びプログラムは、2025年度に5年目を迎えます。

『自分自身のことばを見つめ直す』コースのコーディネーターを務める都染 直也 名誉教授に、コースの特徴や魅力について伺いました。

### ～『自分自身のことばを見つめ直す』コースの特徴～

—— 「文系・理系を問わず、ことばについて研究することができるコースです。」

「自分自身のことばを見つめ直す」コースは、その名の通り、自分自身の人生を振り返り、どんなことばを使って生きているのか、生きてきたのかを見つめ直すコースです。

このコースでは、研究テーマを現在や過去に限定しないため、

自分自身のことばについて、さまざまな切り口から研究することができます。

また、文系・理系を問わず、ことばに興味のある方なら誰でも履修することができるのも、このコースの特徴の一つです。

履修生の中には、今まで理系の道を歩んできた方もいます。

理系を専攻してきたという理由から、このコースに興味はあるものの、

履修をためらう方もいるかもしれません。

しかし、ことばを研究するうえで、理系的な発想・行動は非常に重要です。

ことばは身近な存在であるからこそ、客観視して論理的な推論を立てる力が強みになります。

私自身もどちらかと言えば、理系的な発想・行動をしていると自己分析しています。  
今まで理系を専攻してきた方も、ぜひ履修を検討してみてください。

## ～どのような授業が行われているのか？～

――「ゼミ形式で、履修生の発表を中心とした授業を行ないます。」

「自分自身のことばを見つめ直す」コースの履修生は現在13人。  
「リカレントワークショップA（必修科目）」の授業はゼミ形式になっていて、履修生の発表が中心となります。  
今年は発表の機会を4回設け、履修生のみなさんに日頃の研究を発表していただきました。  
また、発表後には質疑応答の時間も設けています。質疑応答を通し、ほかの人の考え方や意見に触れることで得た知見を自身の研究に活かしてください。  
今後はより多く質疑応答の時間をとり、みなさんの研究をさらに充実させることが目標です。  
もちろん、私からもコメントを返して、履修生のみなさんのお手伝いをします。

## ～何を見つめ、何を学ぶのか～

――「自分自身のことばについて、研究の切り口は様々です。」

研究テーマを過去や現在に限定しないため自由度が高く、履修生のみなさん、さまざまな切り口から自分自身のことばについて研究しています。  
たとえば、流行語をテーマに、あることばが流行った時代に、自分はどんな生き方をしていたのかを見つめ直す研究をする履修生がいます。  
また、「子どもの頃に住んだ地域」「学生時代を過ごした地域」「転勤先の地域」など、今まで過ごしてきた地域のことばをテーマに研究する履修生や、

同じ関西圏の方言の違いについて研究する履修生も。

自分自身のことばについては、無限の研究テーマがあり、とても面白いと思います。

## ～講師からのメッセージ～

――「研究に行き詰まった時は、ぜひ相談してください。」

ことばは身近な存在であるがゆえに、「どうやって研究すればいいのだろう…」と、

行き詰ってしまうことがあるかもしれません。そんな時はぜひ私に相談してください。

お話を聞きながら、研究を進めていくうえでの視点を紹介したり、参考になる資料情報をお伝えしたりと、履修生のみなさんが安心して研究に取り組むことができるよう、私は「案内役」をさせていただきます。

私たちがふだん何気なく話していることばは、自分一人で確立したものではなく、

自分自身を取り巻く社会環境に大きく影響を受けたものです。

本コースの名前にある、「社会言語(学)」という分野名は、自分自身が話すことばと社会(自分自身を取り巻く環境)が、深く関わり合っていることを表わしています。

自分一人の力で人生を振り返り、どんなことばを使って生きてきたのかを見つめ直すことは困難です。

共に学ぶ履修生の考えに触れ、講師である私との対話を通し、

大学ならではの環境で楽しく学んでいただきたいと思います。